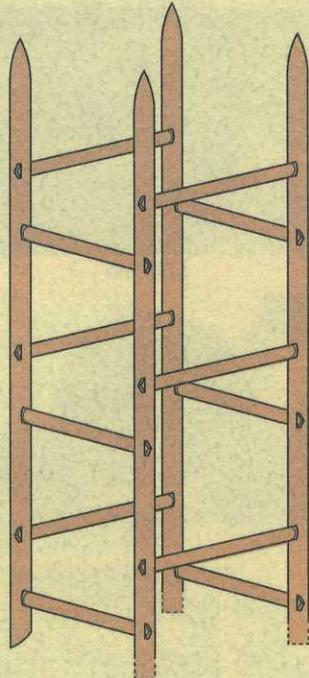
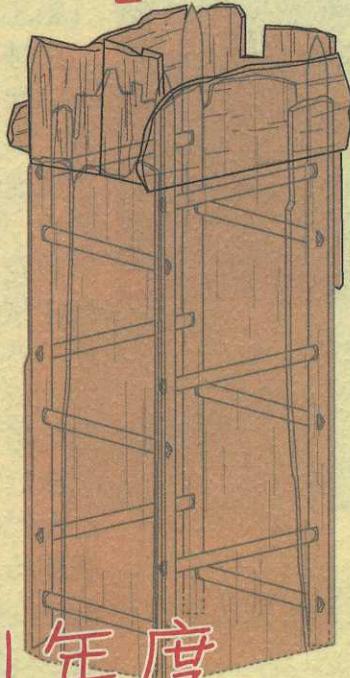
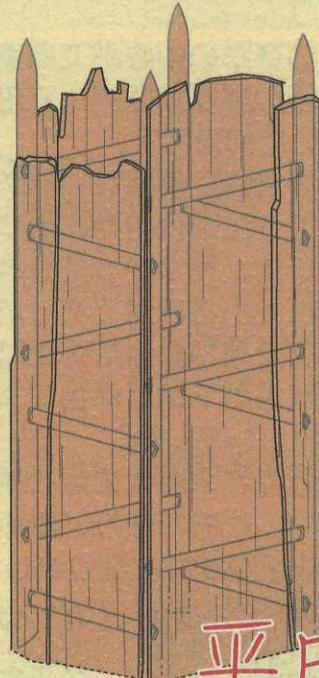


天理市埋蔵文化財センターだより Vol.11

特集 『発掘の現場から -地下に眠る天理の昔々-』



小路遺跡で見つかった井戸枠



平成21年度
発掘調査速報展

◎冬の文化財展 『発掘の現場から -地下に眠る天理の昔々-』 平成21年度発掘調査速報展

平成22(2010)年12月15日(水)~26日(日)

※ 9:00~17:00 ただし26日(日)は13:00まで

※ 20日(月)、23日(木・祝)は休館

天理市文化センター
1階展示ホールにて

◎文化財講演会と展示解説
12月19日(日)14:00~
1階展示ホールにて

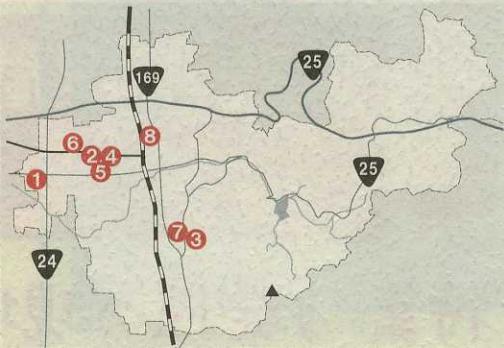
天理市教育委員会文化財課は、これまでに市内の遺跡における多くの発掘調査を実施しています。そのなかには開発に伴う調査に限らず、遺跡の範囲確認や史跡整備に伴う学術調査も実施していますが、これらの調査成果については市民の皆様の目に触れる機会があまり多くありません。

そのため、平成18年度より夏と冬の年2回の文化財展示をおこない、市内の埋蔵文化財について理解を深めていただけるように努めています。

今回の「センターだより」では、平成21年度に市内の各地で実施した発掘調査の成果についてご紹介いたします。

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回の「センターダより」紙面では、平成21(2009)年度におこなった8件の発掘調査の成果を紹介いたします。
発掘調査速報展示とあわせてご覧ください。

- ①下ツ道遺跡
- ②平等坊・岩室北遺跡第2次
- ③成願寺遺跡第17次
- ④⑤平等坊・岩室遺跡第31・32次
- ⑥小路遺跡第3次
- ⑦ノムギ古墳
- ⑧山の辺第1工区 土地区画整理事業に伴う調査



平等坊・岩室 遺跡 第31次 第32次

びょうどうぼう・いわむろ
いせき

④⑤



期間【第31次調査】
平成21年9月10日～
平成21年10月28日
【第32次調査】
平成21年9月28日～
平成21年10月6日

小路遺跡 第3次

しょうじいせき

⑥



期間 平成21年11月11日～
平成22年2月8日

【第31次調査】

店舗建設に伴い遺跡の中心部で調査をおこないました。今回の調査地は弥生集落の居住域と想定されていた部分です。

調査区北端には遺物を含まない自然流路があり、その南側で弥生時代中期の溝や土坑が多数見つかりました。見つかった溝は集落の居住域内に掘られた小さな溝であったようです。さらに、下層で見つかった弥生時代前期の土坑からは、黒色の下地に赤色で文様を描いた彩文土器が出土しました。

また、この付近で弥生時代後期の遺物がほとんど出土しないこともわかり、集落の変遷を知る上で貴重な手がかりとなりました。



調査区の完掘状況



調査風景



出土した水差形土器

【第32次調査】

個人住宅建設に伴い、遺跡北半部で小規模な調査をおこないました。調査地周辺に存在する、弥生時代後期末に溝で方形に区切られた区画は検出できませんでしたが、弥生時代中期・後期・古墳時代の溝が各1条と、古代の流路が1条見つかりました。

市道北大路線建設に伴い、東西2ヶ所の調査区を設けて調査をおこないました。

西側の第1調査区では、古墳時代中期後半～後期を中心とする多数の遺構を検出しました。とくに調査区西側で見つかった古墳時代後期の井戸は、扉などの建築材を井戸枠に転用したもので、須恵器壺など多数の土器が出土しました。

東側の第2調査区でも、多数の土坑などが見つかったほか、古墳時代後期頃の溝を確認しました。この溝は古墳時代の集落域の北東縁辺に位置するものようです。

小路遺跡周辺には星塚1・2号墳や荒時古墳など後期古墳が点在しており、それらとの関連も注目されます。



航空写真(西から)

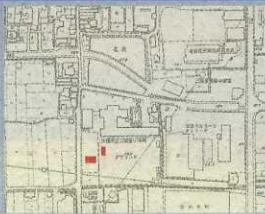


井戸枠に転用された扉

下ツ道遺跡

しもつみちいせき

①



期間 平成21年6月15日～
平成21年7月15日



大溝の掘削風景



瓦

壺(せん)

二階堂小学校プール建設に伴い、古代の官道「下ツ道」の推定線付近に東西2ヶ所の調査区を設けて調査をおこないました。

このうち西側の第2調査区では、南北方向にのびる大溝1条と、これに直交する耕作痕跡の小溝数条を確認しました。大溝は幅が5m以上と広く、埋土に須恵器片が少量含まれることから、下ツ道の側溝である可能性があります。また、近くに役所やお寺があった可能性を示す瓦や壺などの遺物も出土しました。

ノムギ古墳

のむぎこふん

⑦

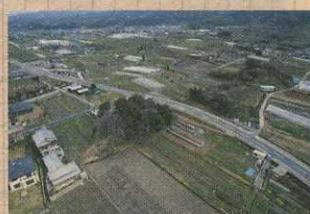


期間 平成22年2月18日～
平成22年3月25日

ノムギ古墳は大和古墳群の北端に位置する全長63mの古墳です。大和古墳群基礎調査の一環として範囲確認調査を実施しました。

調査では墳丘南側の周濠が見つかり、ノムギ古墳が「前方後方墳」であることが確定的になりました。この周濠の埋土からは古墳時代前期初頭から後期にかけての土器が出土しました。また、墳丘にもともと葺石が存在した可能性も出てきました。

ノムギ古墳の調査は今後も継続的に実施していく予定です。



ノムギ古墳(左)とヒ工塚古墳



周濠の検出状況

山の辺第1工区 土地区画整理事業 に伴う調査

やまのべだいいちこうく
とくかくせいりじょう

⑧



期間 平成22年3月29日～
平成22年4月30日



川の跡を掘り下げていきます

区画整理事業に伴い、田部町内で発掘調査をおこないました。

調査区内はほとんど川の堆積で被われており、明確な遺構は確認できませんでした。川の堆積層からは縄文時代晩期の土器を始めとして、弥生時代の終わりから古墳時代の初めにかけての庄内式・布留式土器、さらに古墳時代後期頃の須恵器など、様々な時代の遺物が出土しました。これらの遺物は表面がすりへっていないものが多く、近くに未発見の遺跡が存在する可能性があります。

平等坊・岩室北 遺跡 第2次

ひょうどうぼう・いわむろきたいせき ②



期間 平成21年7月21日～
平成21年7月29日

市道拡幅工事に伴う小規模な調査です。わずかながら土器片が出土し、遺跡の広がりを知る手がかりとなりました。



調査風景

成願寺遺跡 第17次

じょうがんじいせき

③



期間 平成21年9月7日～
平成21年9月14日

携帯電話基地局建設に伴い、マバカ古墳北側で調査をおこないました。

調査地はマバカ古墳周濠と古墳北側の谷地形の狭間にあたり、古墳に関わる遺構の存在が考えられましたが、耕作痕跡を数条検出しただけで、古墳に関わる遺構は確認できませんでした。

出土品紹介

彩文 さいもん

平等坊・岩室遺跡第31次調査で出土した弥生時代前期の壺の破片です。表面を黒色に仕上げ、その上に赤色の顔料により何らかの文様を描いています。こうした装飾方法は彩文と呼ばれます。この破片には彩文のほかに線刻による文様も見られます。

平等坊・岩室遺跡では彩文のある土器の出土例は少なく、貴重な発見となりました。



■平等坊・岩室遺跡第31次
彩文のある土器

出土品紹介

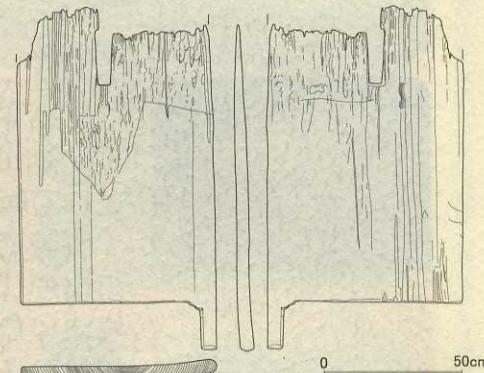
扉 とびら

小路遺跡第3次調査で出土した扉です。古墳時代後期の井戸枠に転用されていました。

扉は大小2点出土しました。大きいほうのものは現状で高さ約120cm、幅約70cmありますが、本来はもっと高さがあったようです。この扉には丁寧に作り出された軸部がついており、もともとは何らかの建物に用いられていたのでしょうか。



扉の軸部



■小路遺跡第3次
扉

出動！発掘現場レポート!!

平成22年度上半期の調査

天理市教育委員会は平成22(2010)年度上半期に発掘調査を1件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■平等坊・岩室遺跡第33次

長屋住宅建設に伴い調査をおこないました。調査では中世末～近世の溝が見つかり、多数の遺物が出土しました。調査地は旧来の岩室集落の東北端にあたり、岩室集落の屋敷地に伴う溝であった可能性があります。また、弥生時代前～中期の土器片も出土しており、弥生集落域の広がりを知る手がかりが得られました。

平成22年度の調査成果は
来年冬の文化財展で
展示するよ！



「奈良県遺跡地図」が変わりました

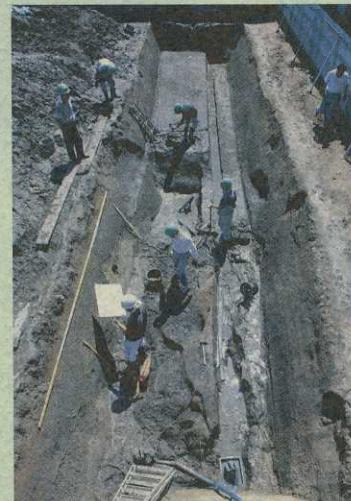
平成22年4月1日付で奈良県遺跡地図が改訂されました。市内でも、遺跡の範囲に変更があります。詳しくはお問い合わせください。

〔問い合わせ先〕天理市教育委員会文化財課 Tel・Fax 0743-65-5720

※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.12は、平成23年夏発行予定です。
お楽しみに！！



■平成22年度上半期の調査遺跡



■平等坊・岩室遺跡第33次
調査風景

発行◆天理市教育委員会 文化財課
天理市埋蔵文化財センター
〒632-0017 奈良県天理市田部町320
Tel・Fax 0743-65-5720
印刷◆富光株式会社